

犬のばあい



メス犬は、生後1年くらいで子犬を産めるようになり、年2回発情します。一回の出産で5～10匹の子犬を産みますから、発情のたびに妊娠していたら、とても飼いきれません。



妊娠・出産の繰り返しは、母犬の体に大きな負担となり、病気や寿命を縮める原因になります。また、発情期には攻撃的になったり防衛本能が増して、問題行動を起こすことがあります。



不妊手術をすることで、望まない子犬が生まれただけでなく、子宮蓄膿症や乳腺腫瘍などの病気の予防にもなります。また、周期的な性格の変化がなくなり、安定して飼いやすくなります。



オス犬には決まった発情期はありません。いわば、一生いつでも発情中。メス犬のにおいがすれば、いてもたってもいられません。

オス犬の性ホルモンは、攻撃性や支配性、なわばり意識を高めます。

オス犬は、常に繁殖に関するストレスにさらされています。



去勢手術をすることで、性ホルモンの影響やこれらのストレスから解放され、おちついたおだやかな犬になります。マーキングや吠え声、ほかの犬とのケンカや脱走などの困った行動も少なくなります。また、前立腺肥大や肛門周囲腺腫瘍、会陰ヘルニアなどの病気の予防にもなります。

性的に成熟する前に去勢すれば、性ホルモンの影響されないまま、繁殖に関するストレスなく一生を過ごすことができます。